

# 大学英語教育学会（JACET）中部支部 2016 年度春季定例研究会プログラム

日時：2017 年 3 月 4 日(土) 14 時 00 分～17 時 45 分

会場：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 西館 2F DW207 レセプションホール

〒461-0048 名古屋市東区矢田南 4-102-9 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩約 3 分

開会挨拶 14 時 00 分～14 時 05 分 支部長 大森裕實(愛知県立大学)

研究発表 14 時 05 分～14 時 35 分 司会 藤原康弘(名城大学)

「日本人英語学習者が持つメタ認知的リーディング学習方略」

森 明智(名古屋外国語大学)

研究会研究発表 14 時 40 分～15 時 40 分

【国際英語と異文化理解研究会】

「国際英語論における「国際英語」に関する示唆への対応」

吉川 寛(中京大学)

「国際語の一つとしての“My English”モデルの提案」

塩澤 正(中部大学)

「英語エッセイに見られる日本人英語の文法特徴に関する国際英語論的分析」

小宮富子(岡崎女子大学)

休憩 15 時 40 分～16 時 10 分

講演 16 時 10 分～17 時 40 分 司会 大森裕實(愛知県立大学)

「英語教育史から学ぶ: 文法訳読方式からアクティブ・ラーニングまで」

江利川春雄(和歌山大学)

閉会挨拶 17 時 40 分～17 時 45 分 副支部長 鈴木達也(南山大学)

懇親会 18 時 00 分～ MU ガーデンテラス

## 発表概要

研究発表

14 時 05 分～14 時 35 分

日本人英語学習者が持つメタ認知的リーディング学習方略

森 明智（名古屋外国語大学）

リーディング学習におけるメタ認知の諸側面については 80 年代以降の Baker(1989)や Pressely(1995)らの研究により、読み手が持つ自己調整の能力について様々な考察が発表され、現在では学習者のリーディングにおけるメタ認知の高さを測る指標として Mokhtari & Sheorey(2008)による 30 から成るアンケート用質問項目が作成されている。

本発表では、日本人英語学習者(大学生)に対して実際にこれらの質問紙調査を実施し、その結果について報告する。主に(1)質問項目への回答結果の分析結果における先行研究との違い、(2)全体的な回答の平均点から推測できる日本人大学生の英語リーディングに対する傾向、(3)実際のリーディング試験と質問への回答結果との間の相関、(4)リーディング指導における示唆、について報告を行う。

また、上記の質問項目には、Oxford(1990)による第 2 言語学習におけるメタ認知的学習方略で主張される学習計画の観点が含まれていないため、今後、これらの項目を含めた包括的な尺度の作成と実際の指導についても触れる。

研究会研究発表

14 時 40 分～15 時 40 分

### 【国際英語と異文化理解研究会】

#### 1. 国際英語論における「国際英語」に関する示唆への対応

吉川 寛（中京大学）

国際英語論と言っても一様ではない。大きく分けて EIL 論、WE 論、ELF 論の 3 論に大別される。各論「国際英語」に関してはそれぞれ異なる示唆を与えている。ELS 論では、全ての英語変種を等価的に捉え、それぞれの上位語変種が国際英語に適していると主張する。WE 論は、拡大円では内円の英語変種を学習モデルにすべきであると提言する。ELF 論では、多言語性と流動性を内包するハイブリッドな英語が国際英語であると考え、この様な 3 様の示唆をどのように対応したらいいかを論ずる。

#### 2. 国際語の一つとしての“My English” モデルの提案

塩澤 正（中部大学）

Kachru の three circle model (1985)、や Svartvik & Leech's の three dimensional model (2006)や Modiano の “Centripetal Circles of International English model” (1999) は英語を地域的、歴史的、社会的な見地からみたモデルとして英語の広がりを示すには有効だが、国際語としての英語学習者や教育者の観点からは、教育の観点から新しいモデルが必要ではないだろうか。「自分の英語 (“My English”)」を一つの国際語としての英語と捉え、A Model of “My English” を作成してみた。

### 3. 英語エッセイに見られる日本人英語の文法特徴に関する国際英語論的分析

小宮富子（岡崎女子大学）

英語を外国語として学ぶ日本人にとって学習段階のエラーには必然性があるが、学習段階をある程度超えた英語使用者の「ネイティブ英語との相違」は、日本人英語の個性として認知し肯定されるべきだというのが国際英語論の主張である。本研究は日本人英語の文法的・語用論的特徴を国際英語論の視点から分析することを目指す。高校英語教員が書いた19の英文エッセイにみられる文法上の特徴を分析し、主題化・定冠詞・共感表現・動詞＋副詞構文その他における日本人英語の特徴的事例を抽出した。

講演

16時10分～17時40分

英語教育史から学ぶ：文法訳読方式からアクティブ・ラーニングまで

江利川春雄（和歌山大学教育学部）

約150年に及ぶ日本の英語教育史を振り返ると、文法訳読式かオーラル重視か、小学校で英語を教えるべきか、授業は英語で行うべきか、教室人数をどうするか、能動的な学びをいかに実現するかなど、現在も直面している諸問題が議論され、実践されてきました。これらから学ぶことで、的確な英語政策と優れた教育実践が可能になります。

講演では、明治以降の教材や授業風景などの実物映像を活用し、クイズも交えながら、先人たちの英語教育実践史をたどります。特に、今日の英語教育を考える上で不可欠な問題に焦点を当てます。例えば、①公立小学校での英語教育は明治期から行われ、教師の資質問題、国語教育との関係、楽しく学ぶ工夫など、平成の議論が先取りされています。②アクティブ・ラーニングのような能動的・協同的な学習法については、江戸時代の蘭学塾や岡倉由三郎の『英語教育』（1911）で提唱されています。③授業での英語と日本語の使い分けは、東京高等師範学校附属中学校が明治末期に検討しています。英語のみで授業をしようとしたパーマの試みは頓挫しました。

歴史は未来を展望するための知恵の宝庫です。その魅力をご紹介します。

#### 【講師紹介】

江利川春雄（えりかわ・はるお）

和歌山大学教育学部・大学院教育学研究科教授。博士（教育学）。専攻は英語教育学、英語教育史。日本英語教育史学会会長。

<主な著書等>

「アクティブ・ラーニングによる同的な英語授業づくり」（DVD4枚、ジャパンタイム社、2016）監修・解説

『「グローバル人材育成」の英語教育を問う』（ひつじ書房、2016）共著

『英語と日本軍：知られざる外国語教育史』（NHK出版、2016）

『英語教科書は<戦争>をどう教えてきたか』（研究社、2015）

『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』（大修館書店、2012）編著

『日本人は英語をどう学んできたか』（研究社、2008）単著

『受験英語と日本人』（研究社、2011）単著

『英語教育のポリティクス：競争から協同へ』（三友社出版、2009）単著

『近代日本の英語科教育史』（東信堂、2006 \*日本英学史学会豊田賞受賞）など。

## 懇親会のご案内

「MU ガーデンテラス」にて、懇親会を行います。会費は 4,000 円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は 3 月 1 日(水曜日)までに、JACET 中部ホームページよりお申し込みください。情報交換・意見交換の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

## 事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第9回中部支部役員会(12:30~13:30)を行います。役員は同会場 DW302 にご参集下さい。

## 会場アクセス

〒461-0048 名古屋市東区矢田南 4-102-9 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩約 3 分



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局:名古屋外国語大学 佐藤雄大研究室内

t-sato@nufs.ac.jp